



◆◆◆◆◆

●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。
●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

勤務医の会が発足35周年

開業・勤務を問わず、保険医療を共通項に自由に語りあえる場

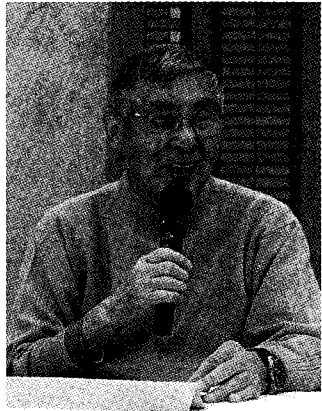
杉藤徹志氏(協会参与・初代代表)にインタビュー

愛知県保険医協会は昨年七十周年を迎えました。長年協会の活動を第一線で築き、支えてきた先生方にお話を伺います。

協会勤務医の会は昨年発足三十五周年でした。当時の勤務医会員は九百四十人。現在は三千百人を超える勤務医の先生方が協会を利用しています。初代代表の杉藤徹志氏にアンケート形式でお話を聞きま

した。
―保険医協会へ入会したきっかけは。

小生が保険医協会へ入会したのは、一九八二年十月だった(自分の記憶ではなく協会の記録による)。自分の医師としての専攻を小児外科医と定め、勤務医として過ごそうと決めていたころである。丁度その頃、名古屋第一赤十字病院で小児医療センターが開設される準備が進められていた。小児外科医が求められており、そこへ潜り込むことに



杉藤 徹志氏

今から考えると、大学の小児外科グループで小児腫

瘍に手を出していて、第一日赤の小児科の白血病を中心とするグループと縁ができたことから、潜り込むこととなったようである。

―アツ、主題と離れたことを書きだしてしまつた。いや、少し関係がある。そんなこんなで診療を開始してみると、審査で査定、返戻の山にぶつかった。名大病院時代はこんなことはなかったのに(あつたとしても一副手、助手には届かなかったか)、「小児には適応なし」が理由だった。

そんな時、学生時代からの親友の加藤友康君に会い、悩みを訴えたら、保険医協会へ一度顔を出さないかと誘われた。それまでは、開業準備の勤務医が入る組織と想っていたが、小

生のこんな悩みに親切にアドバイスをもらい、文献や治療結果を引いて、異議申し立てをすることの有用性を指導してもらった。ウーン、これは勤務医にも役に立つかなと思ひ、協会へ加えていただくこととなった。

―昨年、勤務医の会が発足三十五周年でした。当時のことを教えてください。

開業準備者にとって有用な組織であるとともに、小生と同じく現状に不満を持つものが、その苛立ちを吐き出し、自分の所属する組織の枠を超えて語り合う場をなんとか求めて少しずつ集まるようになってきたのかな。

―開業医、勤務医を問わず、保険医療に携わる者として、保険医協会という共通項の下で、それにとらわれずに自由に語り合い、意見を述べ合う場として働いてきたのかな。

―勤務医にとって、保険医協会はどの様な存在だと思いますか。

勤務医は所属組織に属していても、学会や研究会に属していても、意外に「組織」を持たない存在である。まして社会とのつなが

―若い世代へのメッセージを。
ああ、俺もこれを聞かれる世代になったか。

オリンピックのあの老害ジジーではないが、消え去る世代は静かに去るべし。唯一つ言わせてもらうならば、「元気に発言しようよ」。その発言のために、会議の時間が延びようが、その発言が自分を奮い立たせ、誰かの共感を呼ぶことになれば、きっといつか実を結ぶ。

保険医協会勤務医の会

勤務医の課題を勤務医自身が検討・改善に取り組む場として1985年発足。開業医との連携・協力に大きな役割を果たしている。学習会・講演会の企画、勤務実態などのアンケート調査、働く条件を良くするための診療報酬改善運動に取り組んでいる。昨年6月にはコロナ禍の労働実態・意識アンケートを行い、その声を元に7月に国・愛知県に要望書を提出しました。